

Raffine Journal vol.13

心の温度

— 同じ表現でも、見え方は変わる —

同じシーンでも、
見えているものは同じではない。

あのとき気づかなかったものが、
ある日、ふと輪郭を持つ。

表現は変わっていない。
変わるのは、それに触れる側である。

同じ作品を見返したとき、
以前とは違うものが見えることがある。

セリフも、構図も、
何一つ変わっていないはずなのに、
受け取る印象だけが変わる。

それは理解が深まったからではない。

そのときの自分の状態が、
表現の中にある別の層に触れたということだ。

表現は一つではない。

触れる側によって、
見える層が変わる。

ある俳優の演技を、
久しぶりに見返した。

以前は、
セリフの強さや感情の動きに
目が向いていた。

けれどその日は、
言葉の前にあるわずかな間や、
視線の揺れに引き止められた。

同じ演技であるはずなのに、
見えているものが違っていた。

ある楽曲を、
何年ぶりかに聴いた。

当時は、
メロディや歌詞の意味を追っていた。

けれどその日は、
声の奥にあるわずかなかすれや、
息の抜け方が残った。

言葉ではなく、
その人の状態が先に届いていた。

昔好きだった作品を、
改めて見直した。

あの頃は気づかなかった場面で、
ふと足が止まる。

何が違うのかははっきりしない。

ただ、
以前は通り過ぎていたものに、
視線が留まるようになっていた。


表現は変わっていない。
変わったのは、
それを見る側の状態である。

表現の温度は、
作品の中に固定されているものではない。

それに触れる側の状態によって、
はじめて立ち上がる。

同じ演技でも、
同じ声でも、
触れるたびに違う温度を持つのは、
内側の構造が変化しているからである。

表現は変わらない。
変わるのは、
それに触れる視線である。

A photograph of a sunset scene. The sun is low on the horizon, casting a warm orange glow across the sky. The sky is filled with soft, wispy clouds. In the foreground, a road or path is visible, and a large puddle of water reflects the sunset and the surrounding trees. The trees are silhouetted against the bright sky, creating a dark, intricate pattern. The overall mood is serene and contemplative.

見えていたのは、
ずっと同じではなかった。



R.

Raffiné Journal vol.13
2026

美学思想家
古川玲奈

発行：Raffiné